

KOBE AWAY PRESS 阪

For the Vissel Kobe fan of the Kanto living

Free!!

#2 東海道線号 2010.4.24 Kick Off

私達にはアウェイ戦のゴール裏をクリムゾンレッドで埋め尽くすという夢があります。一人でも多くのヴィッセル神戸サポーターにアウェイ観戦の楽しさを届けたい。KOBE AWAY PRESS (阪)はこうした思いから生まれた情報紙です。KOBE AWAY PRESS (阪)は関東サポーター有志により自主的に制作されています。

敵は第三の男



2009年のJリーグには、ヨーロッパから3人の男が帰ってきた。小野伸二、中村俊輔、そして稲本潤一。いずれもこの10年近く日本代表を支えた英雄達である。その中でも、筆者がもっとも気になるのは稲本潤一である。

1998年11月、ナイジェリアU-21の壮行試合、国立競技場でアルゼンチンに1-0で勝利した試合。美しいループシュートを決めたのは中村俊輔であったが、アシストは稲本。これが稲本が全国に名を売った初めての試合となる。(ちなみにこの試合、古賀誠史も出場している)

話は神戸から大きく脱線しているかとおもわれるが、実はヴィッセル神戸が、今年、3人の欧州帰りの男達と戦う最初のチームなのである。

これまでの2戦、敗戦はしたもの清水の小野には大きな仕事をさせなかった。横浜FMの中村は完璧

に押さえた。しかし、稲本は非常にやっかいな存在である。小野、中村の二人は攻撃力を押さえることで対処できる。しかし、稲本のストロングポイントボール奪取と直後の展開力、加えて力強いドリブル。守備からはいる選手だけに、こちらから押さえにかかることは難しい。そして、いまや川崎の中盤に君臨する稲本を避けることは、神戸の中盤の組み立てを放棄することになってしまう。

一方の神戸、川崎戦にもっとも意気込んでいるのは都倉であろう。川崎時代はほとんど試合出場がなく、悔しい思いをしてJ2草津へ移籍したがJ2で結果を残して成長した姿を等々力の地で川崎サポーターに見せつきたいと強い願いを抱いているに違いない。

両チームの今季新加入にしてすでにキーマンの二人。都倉と稲本、この試合結果を残すのはいずれであろうか？



THINK BACK 川崎編

09 一筋の光明 2-2ドロー

宮本のスーパーゴールが入るまでは、典型的な負けパターン。実はこの試合も前半終わった時点では敗戦を覚悟していた。

先制点は、25分に中村憲剛のミドル。スーパーゴールだったが、混戦のこぼれ球を拾った憲剛に誰もプレッシャーをかけられず。34分にCKから大久保嘉人が同点ゴールを決め、このまま前半を終えると思った43分にCKから菊地に決められる。前後半に限らず、『終了間際に決定的な失点』をするのも典型的なパターンの一つだった。流れを変えたポイントはチョン・テセが前半のみで退いたこと。テセの不在は後半の神戸にとって幸いであった。

そしてクライマックス。宮本恒靖の美しい弧を描いたオーバーヘッドシュートは、等々力で苦杯を舐め続けた関東在住サポにとっては一筋の光明が見えた試合であった。

08 運命の分かれ道 0-4 敗戦

この試合の大敗が松田監督の解任につながったと勘ぐられても仕方ない。というのも、クラブ史上初の5連勝を飾るなどチーム作りは順調、戦術は完成度を高めており、翌年も松田体制が継続されるものだと思っていたのだ。

結果的に大差がついた試合だったが内容は決して悪くなかった。前半立ち上がりにはチョン・テセに先制点を奪われたものの、その後は神戸ペース。レアンドロ、大久保らが川崎ゴールを脅かし続けたが、ゴールは川島のビッグセーブ連発の前に阻まれた。

結局、62分にテセに追加点、立て続けにジュニーニョに3点目を奪われた。加えて、3点目と同時に北本が2枚目の警告で退場となり万事休す。終了間際に4点目を奪われて結果的には0-4の大敗。

しつこいようだが、もしこの大敗がなく松田体制が継続されていたら…まさに運命の分かれ道だったのかもしれない。

07 トーメ最後の勇姿 1-2 敗戦

アジアカップ中断前の18節。神戸は勝点23の10位。神戸が勝利すれば上位で中断期を迎えるという非常に重要な試合だった。

前半9分に村上に先制点を奪われるが、神戸は近藤祐介が14分に同点弾をたたき込む。当時、オシム監督にも呼ばれた近藤祐介は、労を惜しまぬチェイシングを繰り返し、川崎のディフェンスラインに大きなプレッシャーを与えていた。同点弾はその労に報いる当然の帰結。前半を1-1で終えた試合は、後半になっても激しい好ゲーム。試合が動いたのは68分。PA内、榎本のカバーにはいったエメルソン・トーメに中村憲剛が激突。このプレーでトーメが理不尽な警告(2枚目)で退場。ここで川崎が得たPKはジュニーニョの失敗で難を逃れたが、川崎の攻撃に耐えきれず失敗に決勝点を奪われ敗戦。結局、トーメはこの試合が関東での最後の勇姿となってしまった。

2010年度前期日程

節	対戦相手	日時	会場	勝敗・得点	節	対戦相手	日時	会場	勝敗・得点
1	京都サンガFC	3月 7日(日) 14:00	H ホームズ	○ 2-0	11	ジュビロ磐田	5月 8日(土) 19:00	H ホームズ	○ -
2	サンフレッチェ広島	3月 14日(日) 16:00	H ホームズ	● 1-2	12	セレッソ大阪	5月 15日(土) 17:00	A 長居スタ	○ -
3	清水エスパルス	3月 20日(土) 13:00	A アウスタ	● 0-1	N3	モンテディオ山形	5月 22日(土) 16:00	A NDスタ	○ -
4	横浜F・マリノス	3月 27日(土) 14:00	H ホームズ	△ 1-1	N4	清水エスパルス	5月 26日(水) 19:00	H ホームズ	○ -
N1	(ナビスコ・休み)	3月 31日(水)			N5	ジュビロ磐田	5月 29日(土) 14:00	A ヤマハ	○ -
5	名古屋グランパス	4月 3日(土) 16:00	A 豊田	● 0-2	N6	横浜F・マリノス	6月 5日(土) 14:00	H ホームズ	○ -
6	モンテディオ山形	4月 11日(日) 14:00	H ホームズ	● 0-2	N7	湘南ベルマーレ	6月 9日(水) 19:00	A 平塚競	○ -
N2	浦和レッズ	4月 14日(水) 19:00	H ホームズ	● 1-3	13	FC東京	7月 17日(土) 18:30	A 味スタ	○ -
7	ベガルタ仙台	4月 17日(土) 14:00	A ユアスタ	○ 1-0	14	大宮アルディージャ	7月 25日(日) 18:00	H ホームズ	○ -
8	川崎フロンターレ	4月 24日(土) 14:00	A 等々力	○ -	15	ガンバ大阪	7月 28日(水) 19:00	H ホームズ	○ -
9	アルビレックス新潟	5月 1日(土) 13:00	H ホームズ	○ -	16	鹿島アントラーズ	7月 31日(土) 19:00	A カシマ	○ -
10	湘南ベルマーレ	5月 5日(祝) 13:00	A 平塚競	○ -	17	浦和レッズ	8月 8日(日) 18:00	H ホームズ	○ -

※印刷工程にかかる日数の関係で勝敗・得点の記載をしていない日程があります。あなたの手で日程表を完成させてください!

湘南に打ち寄せる波を打ち破れ！



5年ぶりの対戦が実現する。湘南ベルマーレの監督は、反町康治。08年の北京オリンピック日本代表監督であった彼は、オーバーエイジ枠（OA）で嘉人の招集を試みるも、神戸側と協会側との話し合いが物別れに終わり断念。（理由は、嘉人が、その年の2月に手術した右膝に不安があるのと、怪我人が多いチーム事情の為）
同じくOA枠で招集された遠藤（G大阪）も「ウイルス感染症」の為に代表を辞退する。結局、OA枠なしで戦った反町ジャパンは予選リーグを3戦全敗。何一つ良いところを見せつける事が出来ずに、日本に帰ってきた。その反町率いる湘南との一戦がやって来る！そして、湘南には昨年まで神戸に在籍していた馬場賢治が期限付き移籍で加入した。近畿大学4年時の春季関西学生リーグでは、得点王及び年間 MVP 獲得という輝かしい実績を残し、

期待のルーキーだったのだが、神戸在籍時は、フィジカルの脆さを露呈したのと、固定のポジションを見つけられず、不本意な結果に終わった。

ただし、08年6月8日のナビスコ・京都戦で魅せた美しい放物線を描くシュートは、我々神戸サポーターの脳裏に刻まれている。古巣相手に得意とするパスや精度の高いワンタッチプレーが、どこまで通用するのか注目してみるのも面白い。何よりも自身の成長を見せるため、並々ならぬ闘志をぶつけてくるに違いない。

さあ、こどもの日に、平塚競技場へ駆けつけようではないか！

湘南に打ち寄せる波など恐れずに「トモニニコウ。」

※執筆時、馬場選手は怪我のため試合には出場していません。現段階では試合に出場出来るかどうかは分かりません。



THINK BACK 湘南編

ヴィッセル神戸にとって、平塚競技場は決して相性のよいスタジアムではない。

2006年 J2 第13節。湘南に乗り込んだ神戸は試合を押し気味に進めるも、44分に先制点を奪われる。後半開始とともに怒涛の逆襲を見せるが、湘南のゴールマウスは遠かった。後半75分にはエメルソン・トメがペナルティエリア内でファウルをとり、PKを与えてしまう。混乱の中トメは2枚目の警告を受け退場。PKも加藤にきっちり決められ失点。その後、10人での戦いを強いられヴィッセルは善戦するも勝ち点0に終わる。指揮官バクスター（当時）曰く「ゲームの主導権を握りながら結局相手にゲームを譲った」という試合であった。

再び平塚に乗り込んだ第39節では、開始早々カウンターをくらって先制されるが、FW茂木 近藤、三浦淳、トップ下に栗原という攻撃陣は、再三チャンスをつくる。41分には与えられたセットプレーを確実にものにした河本のゴールで逆転に成功。前半を1点リードして折り返す。後半に入り、さらに迫力を増す神戸攻撃陣に対し、湘南守備陣は防戦一方という展開。しかし後半77分に丹羽、79分に近藤と相次いで退場者を出した神戸は9人での戦いを余儀なくされる。残り時間、ピッチに残った9名は湘南の攻撃を懸命に防ぐ。しかし、ロスタイムに同点ゴールを許し、勝ち点3を取りこぼす結果となった。

だが過去も、現在も地力は神戸が勝っている。前述の試合も、ゲームを支配していたのはヴィッセルであったのだ。不吉なジンクスは返上しよう。

2010年 初夏の平塚競技場は、幸運のスタジアムとなる。

いちなフライング!

by:いちな



■平塚競技場アクセス情報

●電車+シャトルバス JR平塚駅北口 (11

番乗り場) 試合開始3時間前より15分間隔

で運行/所要時間:約7分(大人:170円、小人:90円) ◆小田急線伊勢原駅南口 試合開始3時間前、2時間前、1時間前にそれぞれ1本ずつ運行/所要時間:約20分(大人:310円、小人:160円)

●電車+バス JR平塚駅 北口4番乗り場乗車、『総合公園』下車 ◆小田急線伊勢原駅 南口1、2番乗り場『平塚駅行』乗車、『共済病院・総合公園西』下車

●電車+徒歩 JR平塚駅西口 約25分 駅前商店街より歩道に競技場までの道案内のキングベルタイルがあります。

●車 東名厚木インターチェンジから国道129号線経由で約25分(国道1号線および129号線に『総合公園』という看板があります) ※駐車場には限りがあるので、JR平塚駅周辺の駐車場をご利用下さい。

✓ トップチーム

VISSEL KOBE2010

1 GK 榎本 達也	28 GK 嘉味田 隼	29 GK 紀氏 隆秀	30 GK 徳重 健太	2 DF 小林 久晃
4 DF 北本 久仁衛	5 DF 河本 裕之	14 DF 宮本 恒靖	15 DF 大屋 翼	23 DF 近藤 岳登
25 DF 石櫃 洋祐	33 DF 富田 大介	6 MF エジミウソン	7 MF 朴 康造	8 MF 松岡 亮輔
10 MF ボッティ	11 MF ポポ	16 MF 楠瀬 章仁	17 MF 吉田 孝行	18 MF 田中 英雄
24 MF 三原 雅俊	9 FW 我那覇 和樹	13 FW 大久保 嘉人	19 FW 有田 光希	21 FW 茂木 弘人
26 FW 高橋 祐太郎	27 FW 都倉 賢	31 FW 小川 慶治朗	32 FW 三島 康平	35 FW 永井 謙佑

✓ KOBE AWAY PRESS (仮) からのご協力をお願い

KOBE AWAY PRESS(仮)を他のお友達にすすめたいという方や自分のお店において配ってもいいよという方は大歓迎です。一人でも多くのサポーターを誘ってアウェイゴール裏に駆けつけましょう!

KOBE AWAY PRESS(仮)のPDF版ダウンロード、および

KOBE AWAY PRESS(仮)に関するお問い合わせは、以下のURLにアクセスしてください。



KOBE AWAY PRESS (仮) PDF版ダウンロード

<http://kobeap.rlya.jp/>

発行:KOBE AWAY PRESS(仮)編集部



編集後記

アウェイ観戦の楽しみが一つでも増えれば、観戦仲間が一人でも増えればとの思いで、スタートした本紙。

ありがたいことに、#0や#1をご覧いただいた方から、スタジアムやTwitter等で、お声を掛けていただいたりもして、編集部一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

チームは目下のところ苦戦が続いていますが、ここが踏張りどき。いまこそ、あなたの力が必要です。次回も是非、スタンドから想いを伝えて下さい。

そして心から「ヴィッセルを楽しんで」ください。

それではまた、スタジアムで(ない)

このKOBE AWAY PRESS(仮)を受け取ったら、その場で捨てないでお家まで持ち帰ってね!

Keep clean